

# 11月・12月の管理ポイント

当社Webサイトにて  
バックナンバー掲載中  
<http://www.tomo-green.com/>

## 冬場も定期散布 レボ (REVO)

土壌が乾燥しやすい季節です。土壌の乾燥が長期間続くと撥水物質が増えドライ症状が発生してしまいます。冬場は代謝や生理反応が低いので、ダメージが見えにくく見逃されがちです。春になって気が付いた時には既に取り返しがつかない…とならないように冬場も土壌の水管理に気を配りましょう。界面活性剤を定期散布すると安心です。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回

## 乾燥・過湿から プライマーセレクト

冬場は空気が乾燥し、風も強いので、少し油断すると土壌が急激に乾燥してしまいます。プライマーセレクト処理で、適度な水分を保持し、乾燥害からグリーンを守りましょう。

使用量：2ml/m<sup>2</sup>/月 散布水量：200ml~500ml/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回~2回

## 芝生の耐乾性・耐寒性を高めましょう リーフシールド

リーフシールドで茎葉部をコーティングすると、蒸散を抑制し、芝の乾燥を防ぐと共に葉面温度の低下を軽減出来ます。着色剤と組み合わせると、葉面温度が上昇し霜が早く溶けます。

希釈倍率：200~400倍 散布水量：100~300ml/m<sup>2</sup>

## 寒くなる前に貯蔵糖類を貯えましょう グリーンメカ

生育期の11月は糖類の消費が激しくなります。十分に施肥しても、日照不足（曇りや雨の日、日陰になる部分）で光合成が十分に行われない場合、糖類の消費が追い付かなくなってしまいます。足りない消費分を補い、さらに冬の貯蔵分も十分に蓄える為、グリーンメカをたっぷり与え、糖類を十分に補給させましょう。貯蔵糖類を十分に蓄えた芝は、耐寒性耐凍性が向上し、来春の生育が良好になります。

使用量：2~10ml/m<sup>2</sup> 散布水量：1ℓ/m<sup>2</sup>

## 自然な色調の着色剤 カラーメイト F-20

カラーメイトF-20は、従来品に比べ、季節感を重視した落ち着きのある自然な色調(ダークグリーン)に仕上がる着色剤です。物理性(固着性、速乾性、色持ち、色乗りetc)や安全性にも優れています。お求めやすい価格なので、フェアウェイなど広範囲でもご使用いただけます。

使用量：50~100倍 100~200ml/m<sup>2</sup>散布

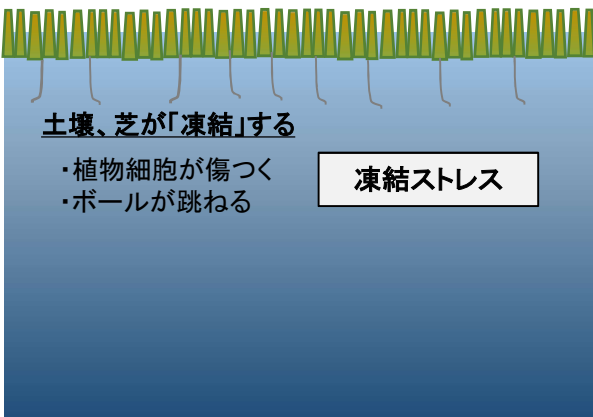
## 芝が受ける冬場のストレスと対策

### 冬場に受けるストレス(浸透性が悪い土壤の場合)

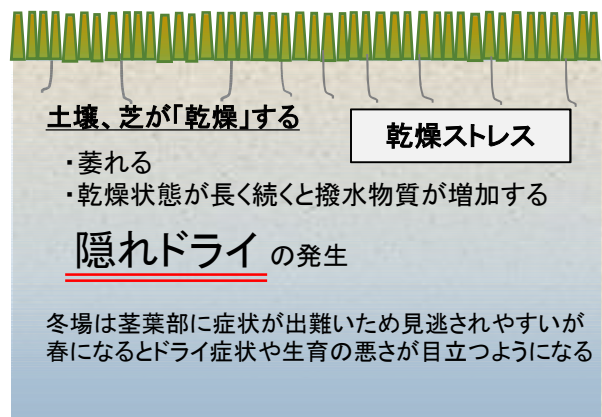
#### 低温ストレス

・低温による代謝生理反応の抑制や傷害 ・光と低温による複合ストレス(低温で光合成機能が低下している時に過剰な光があたると、冬場でも強光ストレス症状が起きます)

#### ●乾燥を防ぐため散水すると...



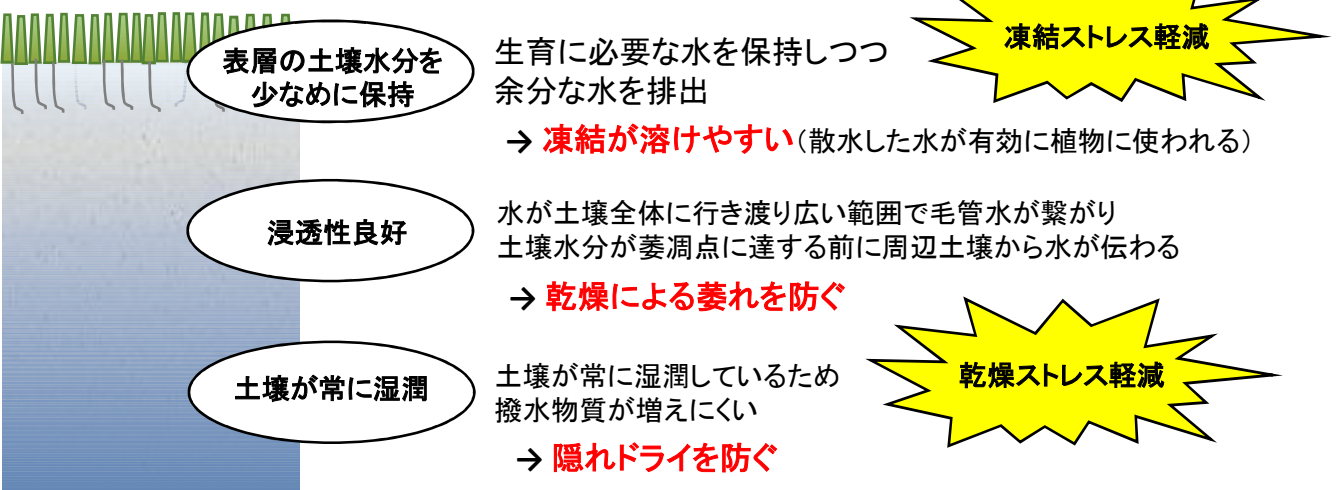
#### ●凍結を防ぐため散水を控えると...



冬場は代謝や生理反応と共に抵抗性も抑制されます  
生育期よりストレスによるダメージを受けやすく、治りにくいので、  
出来る限りストレスを取り除き、芝が生育しやすい環境を整えましょう

### ストレスを減らす対策

#### ●界面活性剤処理等で浸透性が良好になった土壤



界面活性剤を定期散布すると、冬場の水ストレスを大幅に減らすことが出来ます

冬場のダメージを極力減らす→春の立ち上がりが良好になります